

2月3日（日）とかちプラザ 研修室 306 9:00-12:00  
日本ホスピス・在宅ケア研究会 グリーフケア部会 企画  
「終末期以前から始まる家族へのグリーフケア」

医療者や介護職の専門職は患者・療養者・家族に会った最初の時から、相互に理解しあおうという気持ちをもってコミュニケーションを深めていきます。死別後の家族の深い悲しみに寄り添い、支え、立ち直りを支援することがグリーフケアであり、「終末期から家族へのグリーフケアを意識して対応することが大切である」、と言われていきます。しかし、グリーフケアはコミュニケーションの延長線上にあり、コミュニケーションと表裏一体であることを思えば、終末期以前、患者・療養者・家族に会った最初の時からグリーフケアは始まっている、と言えます。共に考えましょう。

【内 容】

本企画は、揺れ動く家族の気持ちについてアンケートによる問題提起、また緩和病棟や在宅支援のベテランの方々のケアに関わるお話、そしてご遺族の体験発表を通して、コミュニケーションとグリーフケアについて学び合います。その後参加者がグループに分かれて、「あなたのグリーフケア、あなたならどうするグリーフケ」というテーマで話し合い、深めて行きます。

【プログラム】

- (1) あいさつ：部会の趣旨 高木和子（5分）
- (2) 「家族の揺れ動くさまさまの様相」：アンケート集計より 中野貞彦（20分）
- (3) “生き切る”ーがんとたたかった緩和ケアチームの仲間 近村美由紀（20分）
- (4) 緩和ケア病棟での患者さんとご家族のケア（仮） 演者未定（20分）
- (5) ご家族の体験発表 演者未定（20分）

休憩

- (6) グループワーク：6グループ、1グループ6,7人（60分）

グループワークでは最初に参加者に、ご自身のグリーフあるいはケアに関して一番心にあることを「アンケート」に書いていただき、自己紹介をします。最後に、各グループワークの内容を報告し、学んだことを共有します。

- (7) 閉会あいさつ

【企画担当】中野貞彦（グリーフケア部会長、がん遺族会・青空の会共同代表）、高木和子（和やかサロン代表）、近村美由紀（安芸高田市医師会）、松本めぐみ（JA 北海道厚生連 帯広厚生病院）